

(6) 海と港

心意気 18

自然環境の保護と緑の整備

内
容

- 自然は子どもばかりか大人にとっても笑顔で暮らし、心と体を成長させるために欠かせないものです。
- 海、夕陽、山や川など留萌の恵まれた自然環境全体を見渡し、留萌にしかない豊かさ、自慢できる風景など留萌の価値を市民みんなで共有し、守り、地域のアイデンティティ（一体性）を強めていくことはわたしたち一人ひとりの課題です。
- また、公園や緑地、花や街路樹などの整備に、市民と行政が協働で取り組んでいきます。

目
的

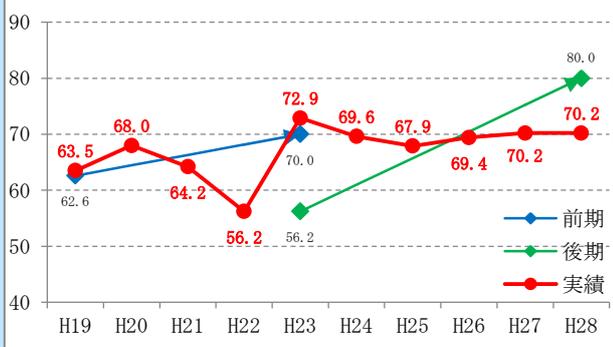
- 緑に囲まれた環境で、うるおいやゆとりをもって暮らせるまちにすること

施策体系図

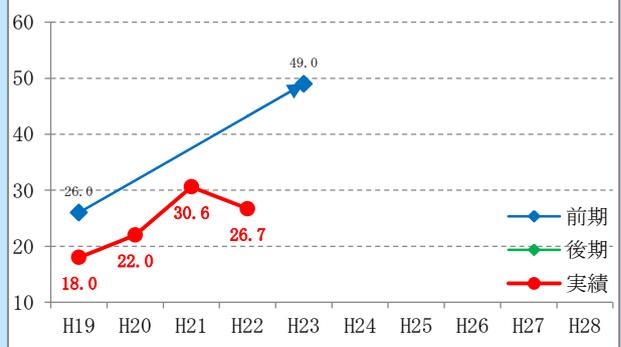


心意気18 自然環境の保護と緑の整備

● 留萌の自然が素晴らしいと思う市民の割合 %



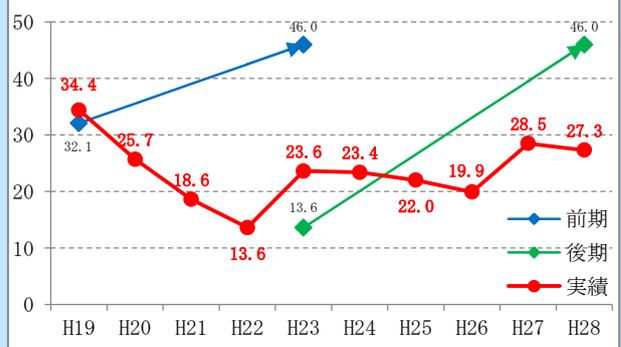
● 自然環境の保護に対する満足度 %



● 自然に親しむ機会に対する満足度 %



● 公園の緑地、広場、子どもの遊び場があることに対する満足度 %



施策No.	068	公園・緑地
-------	-----	-------

■ 第5次総合計画策定時の現状と課題

- 市街地の緑は少なく、7割以上の街区公園が標準規模の面積を満たしていません。
- 遊具類の老朽化も進んでいるため、公園の用途分けを含め、更新整備について検討が必要です。
- 市民の協力や参加を拡大し、協働による維持管理に取り組むことが必要です。
- 公園の再編も視野に入れ、緑の基本計画を策定する必要があります。

■ 前期計画の取組結果

- 限られた予算の中、利用頻度が高い高砂公園や神居岩公園の遊具を補修してきました。
- 地域との協働によるパートナー制度により市内15ヶ所の公園と1ヶ所の街路植樹帯の維持管理を行っています。

■ 後期計画策定時の現状と課題

- 市街地の緑は少なく、7割以上の街区公園が標準規模の面積を満たしていません。
- 遊具類の老朽化も進んでおり、公園の用途分けを含め、更新整備や既存施設の長寿命化対策について取り組みが必要です。
- 市民の協力や参加を拡大し、地域が使いやすく愛される公園づくりを目指し、協働による維持管理として「環境美化パートナー制度」のさらなる普及が必要です。
- 公園の再編も視野に入れ、緑の基本計画を策定する必要がありますが、計画策定に多額の費用を要するのが課題となっています。

■ 後期5年間の方向性

- 既存公園の用途分けを踏まえた公園施設の長寿命化計画を策定し、計画的な補修・維持管理・更新整備を行います。
- 地域が使いやすく愛される公園づくりとして、地域との協働による環境美化パートナー制度のさらなる普及を目指します。

■ 後期計画 目指す姿

- 市民の憩いの場となる公園・緑地が整備され、子どもからお年寄りまでが安心して時間を過ごし、市民の笑い声や笑顔があふれています。
- 市民が進んで公園の維持管理に参加しています。

■ 関連事務事業名

事務事業名	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
憩の森・望洋の森管理事業（憩いの森管理事業）	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→

※事業開始初年度には「●」、前年度からの継続には「→」を入力してください。

■ 施策における目標値と実績

No.	指標名	成果目標値と実績値						
		(前期基準値)	前期目標値	H19	H20	H21	H22	H23
127	留萌の自然が素晴らしいと思う市民の割合	62.6	70.0	63.5	68.0	64.2	56.2	72.9
		(後期基準値)	後期目標値	H24	H25	H26	H27	H28
		56.2	80.0	69.6	67.9	69.4	70.2	70.2
128	自然環境の保護に対する満足度	(前期基準値)	前期目標値	H19	H20	H21	H22	H23
		26.0	49.0	18.0	22.0	30.6	26.7	-
		(後期基準値)	後期目標値	H24	H25	H26	H27	H28
129	自然に親しむ機会に対する満足度	(前期基準値)	前期目標値	H19	H20	H21	H22	H23
		36.9	58.0	29.0	31.2	40.9	35.1	-
		(後期基準値)	後期目標値	H24	H25	H26	H27	H28
130	公園の緑地、広場、子どもの遊び場があることに対する満足度	(前期基準値)	前期目標値	H19	H20	H21	H22	H23
		32.1	46.0	34.4	25.7	18.6	13.6	23.6
		(後期基準値)	後期目標値	H24	H25	H26	H27	H28
		13.6	46.0	23.4	22.0	19.9	28.5	27.3

① 目標達成度評価

後期5か年に係る指標数値結果の推移から、目標値に対する達成度状況や乖離理由についての総括・評価

市民による「留萌に自然の素晴らしさに対する割合」は7割前後で推移している。また、憩いの森での自然観察会などの実施回数も増加しているところである。望洋の森に関しては、一部施設の休止状態が継続していることから、市民利用がそれほど進んでいない。このため、目標値に対しては、まだ未達成の状況となっている。

② 外的要因等分析評価

後期計画策定時と比べ、本施策を取巻く環境・社会情勢・国、道の動きなどの変化を踏まえ、現状と課題

憩いの森に関しては、多数の市民が散策等に訪れており、また、ネイチャースクールや学校授業などにも利用されている。望洋の森に関しては、施設の一時利用休止などによりあまり活発な利用とは言えない状況である。

森林への、保健やレクリエーションの場として利用に対する期待などは増えていることから、維持・管理に対する経費は必要である。また、ネイチャースクールなどの場として利用されていることから、今後とも維持・管理を行っていく。

③ 事業最適化評価

第5次計画における総合評価を踏まえ、第6次総合計画(基本計画)の前期方向性実現に向け、引き続き(又は新たに)取り組む事務事業の内容、推進方策等について

森林を自然の公園施設として開放していることから、留萌の山林の自然環境を知ってもらうためにも、引き続き維持管理を進めるとともに、ネイチャースクールや学校の授業に対しても良好な環境を提供していく必要がある。

施策No.	068	公園・緑地
-------	-----	-------

第5次総合計画策定時の現状と課題

- 市街地の緑は少なく、7割以上の街区公園が標準規模の面積を満たしていません。
- 遊具類の老朽化も進んでいるため、公園の用途分けを含め、更新整備について検討が必要です。
- 市民の協力や参加を拡大し、協働による維持管理に取り組むことが必要です。
- 公園の再編も視野に入れ、緑の基本計画を策定する必要があります。

前期計画の取組結果

- 限られた予算の中、利用頻度が高い高砂公園や神居岩公園の遊具を補修してきました。
- 地域との協働によるパートナー制度により市内15ヶ所の公園と1ヶ所の街路植樹帯の維持管理を行っています。

後期計画策定時の現状と課題

- 市街地の緑は少なく、7割以上の街区公園が標準規模の面積を満たしていません。
- 遊具類の老朽化も進んでおり、公園の用途分けを含め、更新整備や既存施設の長寿命化対策について取り組みが必要です。
- 市民の協力や参加を拡大し、地域が使いやすく愛される公園づくりを目指し、協働による維持管理として「環境美化パートナー制度」のさらなる普及が必要です。
- 公園の再編も視野に入れ、緑の基本計画を策定する必要がありますが、計画策定に多額の費用を要するのが課題となっています。

後期5年間の方向性

- 既存公園の用途分けを踏まえた公園施設の長寿命化計画を策定し、計画的な補修・維持管理・更新整備を行っていきます。
- 地域が使いやすく愛される公園づくりとして、地域との協働による環境美化パートナー制度のさらなる普及を目指します。

後期計画 目指す姿

- 市民の憩いの場となる公園・緑地が整備され、子どもからお年寄りまでが安心して時間を過ごし、市民の笑い声や笑顔があふれています。
- 市民が進んで公園の維持管理に参加しています。

関連事務事業名

事務事業名	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
都市計画行政統括事業（都市計画行政）	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
公園管理統括事業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
公園管理事業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
船場公園整備事業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
浜中運動公園改修工事				●		●	→			
船場公園管理事業				●						
船場公園交流促進事業					●					
浜中運動公園ふれあい橋改修工事					●			●		
見晴公園トイレ改修工事					●					
公園施設長寿命化計画策定事業					●	→				
沖見海浜公園整備事業						●				

※事業開始初年度には「●」、前年度からの継続には「→」を入力してください。

施策における目標値と実績

No.	指標名	成果目標値と実績値							
		(前期基準値)	前期目標値	H19	H20	H21	H22	H23	
127	留萌の自然が素晴らしいと思う市民の割合	62.6	70.0	63.5	68.0	64.2	56.2	72.9	
		(後期基準値)	後期目標値	H24	H25	H26	H27	H28	
		56.2	80.0	69.6	67.9	69.4	70.2	70.2	
128	自然環境の保護に対する満足度	(前期基準値)	前期目標値	H19	H20	H21	H22	H23	
		26.0	49.0	18.0	22.0	30.6	26.7	-	
		(後期基準値)	後期目標値	H24	H25	H26	H27	H28	
		-	-	-	-	-	-	-	
129	自然に親しむ機会に対する満足度	(前期基準値)	前期目標値	H19	H20	H21	H22	H23	
		36.9	58.0	29.0	31.2	40.9	35.1	-	
		(後期基準値)	後期目標値	H24	H25	H26	H27	H28	
		-	-	-	-	-	-	-	

130	公園の緑地、広場、子どもの遊び場があることに対する満足度	(前期基準値)	前期目標値	H19	H20	H21	H22	H23
		32.1	46.0	34.4	25.7	18.6	13.6	23.6
		(後期基準値)	後期目標値	H24	H25	H26	H27	H28
		13.6	46.0	23.4	22.0	19.9	28.5	27.3

① 目標達成度評価

後期5か年に係る指標数値結果の推移から、目標値に対する達成度状況や乖離理由についての総括・評価

成果指標においては、目標値を上回る項目は無いが、今後の船場公園の利活用、及び計画的な遊具の更新により改善していきたい。

市民の憩い場となる船場公園整備事業が完了。既存公園施設は、点検・診断を実施した上で「長寿命化計画」を策定し、計画的に修繕・更新を進め、市民の安心・安全の確保等に寄与している。また、地域が使いやすく愛される公園づくりとして、地域との協働による「環境美化パートナー制度」の普及に取り組み、地域住民が公園管理に参加している。

今後においても、市民の安心・安全の確保等のため、「長寿命化計画」に基づき、将来にわたって必要なインフラの機能を発揮し続けるために、「公園施設」などの修繕改修事業を計画的に行う必要がある。また、地域との協働による「環境美化パートナー制度」の更なる普及に取り組む必要がある。

② 外的要因等分析評価

後期計画策定時と比べ、本施策を取巻く環境・社会情勢・国、道の動きなどの変化を踏まえ、現状と課題

- ・公園の利活用の促進。（特に船場公園）
- ・市民の協力や参加を拡大し、地域が使いやすく愛される公園づくりを目指し、協働による維持管理として「環境美化パートナー制度」のさらなる普及が必要であるが、町内会組織の弱体化、高齢化、担い手不足が問題となっている。
- ・留萌市が管理する公園は47箇所・537施設あり、今後急速に増大する老朽化施設を計画的・効率的に保全し、可能な限りコスト縮減するために公園施設長寿命化計画に基づき、予防保全型の維持修繕を行う必要がある。特に安全性の確保が重要である遊具の更新は、子ども・子育て支援事業計画（子ども・子育て会議）での意見、利用促進の観点からも必要である。

③ 事業最適化評価

第5次計画における総合評価を踏まえ、第6次総合計画(基本計画)の前期方向性実現に向け、引き続き(又は新たに)取り組む事務事業の内容、推進方策等について

- ・地域が使いやすく愛される公園づくりとして、地域との協働による環境美化パートナー制度のさらなる普及を目指す。
- ・公園施設の計画的な点検、維持管理を行う。
- ・公園施設長寿命化計画に基づき、計画的に補修・改修整備促進。

① 目標達成度評価

後期5か年に係る指標数値結果の推移から、目標値に対する達成度状況や乖離理由についての総括・評価

町内会、ボランティア団体による道路植樹帯への植栽が一部実施されたが、新たな緑化空間の創設までは至っていない。
関連施策となる公園・緑地事業において、船場公園が整備され、平成28年度から全面供用開始となった。

② 外的要因等分析評価

後期計画策定時と比べ、本施策を取巻く環境・社会情勢・国、道の動きなどの変化を踏まえ、現状と課題

- ・環境美化パートナーに登録している団体によって、街区公園の花壇や道路の植樹帯などで植栽が行われている。
- ・街路樹や公園の樹木は、枯渴した樹木の補植は行われていないため、減少している。

③ 事業最適化評価

第5次計画における総合評価を踏まえ、第6次総合計画(基本計画)の前期方向性実現に向け、引き続き(又は新たに)取り組む事務事業の内容、推進方策等について

- ・緑化や植栽の大切さについて市民意識が醸成され、市民との協働による緑化運動の活性化を促進していく。

内容

- 留萌の歴史は、海と港とともにあると言っても過言ではありません。
- まちと関わりを持ち続けた港の歴史を留萌らしさのシンボルとして、あらためて認識したい。
- わたしたちのふるさと“留萌”と“留萌港”のことが知り、楽しみ、活かすために、みんなで留萌を語り、愛し、気概を持って未来に伝えていくことが大切です。
- また、港は、道北の玄関として、みんなに親しまれ、利活用されるよう努めます。

目的

- 市民に愛され、親しまれる港があるまちにすること
- 道北圏域を含めた物流と地域経済が活発なまちにすること

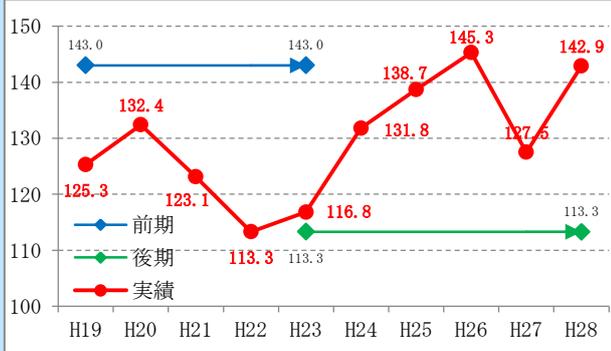
施策体系図



心意気19 港を活かしたまちづくり

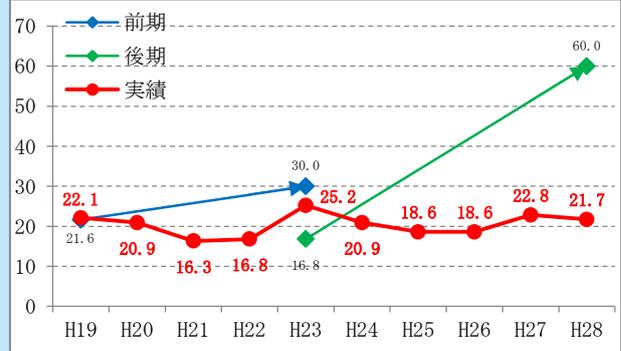
● 留萌港取扱貨物量

万トン



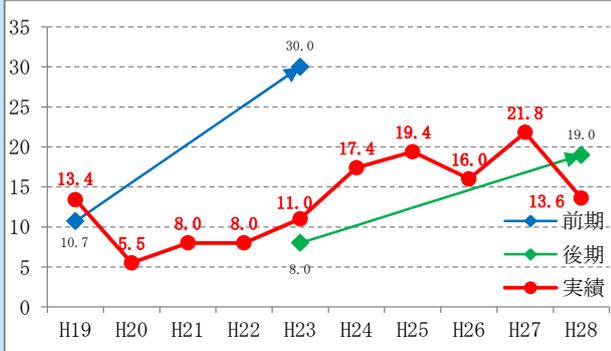
● 留萌港に魅力や親しみを感じる市民の割合

%



● 港を活かしたまちづくりに対する満足度

%



施策No.	070	留萌港
-------	-----	-----

第5次総合計画策定時の現状と課題

- H16年に三泊地区の-12m耐震岸壁が完成しました。今後は既存施設の有効活用や老朽化施設の計画的な改修が課題です。
- 「留萌港フェリー就航促進期成会」（H8年設立）と「留萌港フェリー就航促進道北連合会」（H11年設立）が情報交換や要請、陳情などを展開してきましたが、海運・物流業界の環境や状況が激しく変化しているため、今後の状況を見ながら進めていかなければなりません。
- 道北地域の物流拠点として産業面優先に整備してきましたが、今後はこれに加え、市民や留萌に訪れる方々が親しみを持って触れあえる港の整備が求められています。

前期計画の取組結果

- 港湾施設の有効活用を図ることを目的として「留萌港利活用計画」を策定しました。
- H20年に留萌港フェリー就航2団体を発展的に解散し、2団体を統合した新組織「留萌港利活用推進連絡協議会」を設立し、新たな展開を図ってきています。
- 既存の施設を利用し、「るもい呑涛まつり」等のイベントが開催されており、市内外の方々から港への関心が高まっています。

後期計画策定時の現状と課題

- 港湾内の静穏度向上、老朽化している施設の維持改良・高度化など港湾機能の改善が必要であり、物流機能の充実には貨物量の確保が重要です。
- 現港湾計画は計画期間を超えており、実現が困難な計画となっているので、現状に即した港湾計画の見直し作業が必要となっています。
- 留萌港利活用計画の事業化に向けて、詳細な調査や検討、調整等を行い、今後の港湾計画に位置付けていくことが必要となっています。

後期5年間の方向性

- 留萌港の新たな港湾機能の展開にあたっては、背後地域との連携をさらに強化し、物や人の物流・交流ネットワーク等の強化・効率化を図り、また、太平洋側港湾の災害時には耐震強化岸壁における物流機能の支援など、本市をはじめ背後地域の継続的な発展を推進していきます。
- 静穏度の向上と港湾施設の維持及び老朽化対策の整備を進めるとともに、港に親しみを持たせる親水空間の創出として海洋性レジャー拠点や交流人口を増加させるための環境や機能構築等の展開を推進していきます。

後期計画 目指す姿

- 港の老朽化施設の改修が進み、安全で効率的に港が利用されています。
- 交通基盤の整備が進み、陸・海・空のネットワークにより、留萌港の経済圏である留萌・上川・空知地域を中心とした物流が活発になっています。
- 港の持つ魅力や親水性に配慮したイベント等が実施されるなど、市民の港への関心が高まり、親しまれています。

関連事務事業名

事務事業名	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
港湾管理統括事業	●	→	→	→	→	→	→	→	→	→
港湾管理事業	●	→	→	→	→	→	→	→	→	→
港湾事業特別会計繰出金	●	→	→	→	→	→	→	→	→	→
南岸地区排水溝敷設工事	●									
三泊地区臨港道路整備事業	●	→	→							
直轄港湾整備事業管理者負担金	●	→	→	→	→	→	→	→	→	→
三泊地区（西防波堤）災害復旧工事管理者負担金		●								
地上デジタル放送受信障害調査委託料			●							
航路泊地障害物調査委託料			●							
【繰越】 港湾事業特別会計繰出金			●							
【繰越】 三泊地区（西防波堤）災害復旧工事			●							

※事業開始初年度には「●」、前年度からの継続には「→」を入力してください。

施策における目標値と実績

No.	指標名	成果目標値と実績値						
		(前期基準値)	前期目標値	H19	H20	H21	H22	H23
131	留萌港取扱貨物量	143.0	143.0 維持	125.3	132.4	123.1	113.3	116.8
		(後期基準値)	後期目標値	H24	H25	H26	H27	H28
		113.3	113.3 維持	131.8	138.7	145.3	127.5	142.9

132	留萌港に魅力や親しみを感じる市民の割合	(前期基準値)	前期目標値	H19	H20	H21	H22	H23
		21.6	30.0	22.1	20.9	16.3	16.8	25.2
		(後期基準値)	後期目標値	H24	H25	H26	H27	H28
133	港を活かしたまちづくりに対する満足度	16.8	60.0	20.9	18.6	18.6	22.8	21.7
		(前期基準値)	前期目標値	H19	H20	H21	H22	H23
		10.7	30.0	13.4	5.5	8.0	8.0	11.0
		(後期基準値)	後期目標値	H24	H25	H26	H27	H28
		8.0	19.0	17.4	19.4	16.0	21.8	13.6

① 目標達成度評価

後期5か年に係る指標数値結果の推移から、目標値に対する達成度状況や乖離理由についての総括・評価

東日本大震災の影響により火力発電所の稼働が増加したことや石油石炭税増税前の駆け込みによる需要増のため、留萌港の太宗貨物である石炭の輸入量が増加し、取扱貨物量が目標値を上回った。
港の施設を一時的に開放してのイベントなどが年に数回行われており市民等が港に足を運ぶ機会はあるが、港湾は地域や背後圏域の経済活動を第一に物流機能を優先した施設整備としていることから、市民等が気軽に港に接する機会が少なく、目標値を下回る結果となったと考えられる。

② 外的要因等分析評価

後期計画策定時と比べ、本施策を取巻く環境・社会情勢・国、道の動きなどの変化を踏まえ、現状と課題

東日本大震災の影響による原子力発電所の稼働停止により火力発電所の稼働が増加、また、石油石炭税の段階的な増税に対し、増税前の駆け込み需要があったなど石炭の輸入量が増加したが、今後の電力需要の動向によっては、石炭輸入量の減少が懸念される。
国内外における道産木材の利用が進み、平成26年からは中国及び韓国に向けた輸出が開始されたほか、国内向けの移出についてもここ数年増加傾向にある。

③ 事業最適化評価

第5次計画における総合評価を踏まえ、第6次総合計画(基本計画)の前期方向性実現に向け、引き続き(又は新たに)取り組む事務事業の内容、推進方策等について

国や北海道との連携を密に、新たな貨物発掘に向けた情報収集や研究を進めるとともに、企業に対するポートセールスを継続して実施し、留萌港の利用促進に向けた取組みを進めていく。
留萌港の維持管理計画に沿った点検等の確実な実施により、老朽化施設の維持及び改修を計画的に進めるほか、留萌港の経済圏域との新たな連携を模索し、本来港が持つ物流、産業に関連する機能強化・効率化を図っていく。

① 目標達成度評価

後期5か年に係る指標数値結果の推移から、目標値に対する達成度状況や乖離理由についての総括・評価

平成26年度に留萌港からトドマツの輸出が開始されたが、受入先でも木材が余っており、今後の増加も見込めない状況にある。

② 外的要因等分析評価

後期計画策定時と比べ、本施策を取巻く環境・社会情勢・国、道の動きなどの変化を踏まえ、現状と課題

北海道国際輸送プラットフォーム（HOP）による小口冷凍・冷蔵輸送サービスや、海外企業とのマッチング等の活用も視野に入れながら、経済国際化に向けた取り組みの足がかりとする。

③ 事業最適化評価

第5次計画における総合評価を踏まえ、第6次総合計画（基本計画）の前期方向性実現に向け、引き続き（又は新たに）取り組む事務事業の内容、推進方策等について